

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
			達成及び取組状況をふまえ、成果と課題等を明らかにし、自己評価する。その際、必要に応じ、保護者アンケートの結果も含める。	評価基準により段階評価を行う。	評価基準により段階評価を行う。	自己評価及び学校関係者評価をふまえた改善策や次年度の目標を具体的に示す。
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	各学年の姿から発達を踏まえ、話し合いを重ねて、教育課程の見直しを行った。表にして見える化したことで、職員間での共通理解にもつながった。保育者は、日々の保育がめざす幼児像につながっていくよう、毎月・学期ごとに評価反省を行い、学級経営に生かしている。	3	4	年度当初に見直した教育課程を指標としながら、幼児の興味や発達を捉え、教材研究や見直しをもった保育の展開に努めていく。職員間での保育を見合ったり、協議する機会を確保し、指導力の向上をめざし、よりよい学級経営を行っていく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	日々の保育記録をもとに一人一人の幼児の育ちや課題を読み取り、日々の保育に活かすよう努めている。また、職員全体で子供たちを見守る姿勢に心掛け、情報共有を図りながら保育を行っている。勤務時間の違う補助教諭やヘルパーとは話し合いの時間がもちにくいため、情報共有の工夫を工夫している。	4	4	職員間で幼互いに保育を見合ったりしながら、一人一人を多面的に見て幼児理解につなげていく。引き続き、個人記録の取り方を工夫し、職員間で共通理解しながら保育を進めていく。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	担任と補助教諭が連携を図り、学級集団の中で、園生活を楽しめるようにしている。また、幼児理解に努め、課題を明確にし、適切な支援ができるようにしている。必要に応じて関連機関と連携を図り、よりよい支援ができるように取り組んでいる。	3	3	特別な支援を必要とする幼児への関わり方について、全職員で共通理解し、その場に応じた適切な支援ができるよう、職員間で声をかけ合い連携を図っていく。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	人権・同和教育の目標を年齢別に具現化し、一人一人を大切に学級経営に努めている。互いの違いや良さに気付いたり、認め合ったりできるような関わりを心がけている。職員は、研修会に参加し、自らの人権感覚を磨くことができるよう努めた。	3	3	今後も職員が研修会に参加し、自らの人権感覚を磨き、保育活動における様々な場面で、温かい関わりに努め、互いが認め合える集団作りに努める。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	行事のねらいを明確にして日々の保育との関連を意識した行事内容の工夫を行った。行事に向かっていく中で、幼児が主体的に取り組み、意欲的に進めていけるよう話し合いや振り返りを大切にしている。高松地域の行事にも積極的に参加し、地域の方との温かい触れ合いの場となっている。	4	4	ねらいを明確にし、日々の保育との連続性をもたせ、幼児の成長に必要な経験となるよう、内容を精選していく。保護者に対して、行事に至るまでの様子や年齢に応じたねらいなどもクラス便り等で伝え、幼児にとっての意義を知らせていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	保育活動で校庭を使用したり、高松小学校の体育会や音楽発表会を見学したりする中で、幼児は小学校を身近に感じている。年長児が2月に予定している小学校見学も就学への期待が膨らむ活動であると期待している。保幼小連絡会で子供たちの様子を伝え合い、連携を図ることができた。	3	3	・今後も保育・授業見学や連絡会等を通して、互いの理解を深め、スムーズな就学につなげていく。 ・互恵性のある交流ができるようあり方を探っていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	園日より、クラス便り等で保護者へ情報発信をしたり、年2回の個人懇談や連絡帳、送迎時を利用して、幼児の様子を伝え共通理解を図るようにしている。また、地域の方を講師に招いての広場活動を実施したり、地域の行事に積極的に参加したりして連携を図るようにしている。未就園児教室は年間計画に基づいて実施し、季節を感じられるように活動内容を工夫している。	4	4	・保護者や地域へ幼稚園の取組や教育内容等の発信に努め地域行事へも積極的に参加していく。 ・地域と連携を図り、豊かな体験活動の充実につなげていく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	出雲市幼稚園教育研究会西ブロック研究会を受けたことで、自園の研究・保育実践について話し合い、共通理解しながら進めることができた。県・市の研究大会へ積極的に参加し、学んだことを園内で報告することにより、自己研鑽や園全体の保育の資質向上を図った。1学期の実践事例を作成し、保育を振り返ることができた。	3	3	・日々の保育について語り合える場と時間を確保する。 ・研究・研修会への積極的な参加と園内研修の充実により、職員一人一人の資質向上に努める。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	自分の分掌に責任をもち、担当の園務について早めの起案を行いながら、計画的に取り組むよう努力している。勤務時間の違う補助教諭とは、クラス内での連携を図り、互いに声をかけ合って、協力して取り組むよう心掛けている。	3	3	・園務がスムーズに進むように、早めの計画をし、職員会議で共通理解を図っていくようにする。 ・情報共有に努め、助け合ったり協力し合ったりする体制作りを心掛ける。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	災害時の避難訓練を定期的に実施し、園児の安全意識を高めるとともに、迅速な避難行動ができるように努めている。1月に起きた東部地震の際、園児は職員誘導で安全に避難することができた。また、園児の防犯教室に合わせて、職員による不審者対応訓練を行った。防犯カメラを設置してもらい、不審者対策につながっている。	3	3	・今後もいろいろな災害を想定した避難訓練を行い、その都度、いろいろな場面を想定した話し合いをもち、臨機応変に対応できるようにする。 ・今後も近隣施設の感染状況の把握に努め、適切な感染症対策を実施し、園児の健康・安全を確保する。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	園舎が老朽化しているが、定期点検を実施し、必要に応じて、教育施設課と連携を図り、対応に努めている。今年度は、渡り廊下の床のコンクリート部分張り替え、保育室床の修理等をしてもらった。今後も必要箇所について市へ要望していく。	3	3	・園舎の老朽化、園庭の水はけの悪さ等課題があるので、今後も教育施設課との連携を密にし、改善が必要な箇所を発見した場合には、速やかな対応に努める。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する